



図書館報

Number 63

目が不自由な方のために、録音図書を作成して貸し出しています。

浦安市立図書館の
ハンディキャップサービス①



図書館職員がご希望の資料を
対面朗読します。



目の見え方に合わせて、
拡大図書の製作をしています。



パソコンを使って点訳図書を
製作しています。



浦安市立図書館

URAYASU PUBLIC LIBRARY

「読みたい気持ち」に応えます ～対面朗読・資料製作編～

目が見えない、病気や高齢により視力が落ちたなど、視力にハンディキャップを抱える方も、「本を読みたい」という気持ちは晴眼者（目の見える人）と変わりません。浦安市立図書館では、このような方々への読書保障の一手段として、対面朗読の実施や録音図書・点訳図書の資料製作と提供を行なっています。

対面朗読サービス

対面朗読サービスとは、目が不自由な方の「目のかわり」として、朗読者が一対一で直接資料を読むサービスです。場合によっては利用者宅で行なうこともありますが、通常は中央図書館内の録音室という遮音を施している部屋で行います。その場合、車での送迎も行なっています。

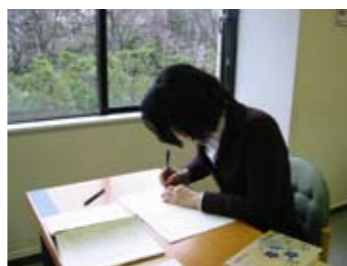
録音図書サービスと違い、利用者が選んだ資料の内容に即座に接することが出来る、分かりにくいところはその場で質問したり、調べたりすることが出来るなどの利点があります。読む資料は、図書館の所蔵資料や利用者が所有する資料などです。利用者の方のプライバシーに配慮して、朗読は図書館員があたっています。



拡大写本サービス

拡大写本とは、主に弱視や高齢の方のために、その方の見え方に合わせて、文字などを手書きによって拡大して書き

写した本です。このため、ひとりひとりの見え方に応じて、その方がもっとも読みやすい形と大きさの文字に拡大して提供することができます。図書館では、ご希望に応じて様々な種類の拡大写本を製作・提供しています。



録音サービス

点字を使わない中途失明の方や、自分でページをめくることが難しいなど肢体が不自由な方のために、著作権者の許諾を得た上で、活字資料をテープに録音した録音図書の製作・提供をしています。



活字資料を正確に音声化（音訳）することは大変難しく、特に新聞や雑誌などの緊急性の高い資料は限られた時間で録音しなければならないため、製作には高度な技術を要します。また、録音をする前には、入念な下調べも欠かせません。図書館では製作を依頼している協力者に対し、定期的に講習会を開催し、技術向上のバックアップをしています。



点訳サービス

リクエストに応じて、墨字（点字などに対して一般の活字のこと）資料を指先で触読できるよう点訳し、点訳図書として製作・提供をしています。点訳に

は独特のルールがあり、それを理解し点字を読む訓練をした方でないと点訳資料は利用できませんが、点訳図書は録音図書に比べ、読み返しや検索が容易であったり、自分のペースで読書出来るなどの利点があります。現在、図書館では、パソコンを使って点訳しプリンターで打出しをしています。また、点字データをパソコンの読み上げソフトを使って読書をすることも可能です。



大活字本



大活字本とは、通常の本より大きな文字で書かれた本のことです。自分の目で本を読みたいけれど、小さい文字では読みづらいという方のために、図書館では大活字本を購入し提供しています。中央図書館の一般フロアにあるほか、病院などの団体にも貸出をしています。

図書館の協力者制度

活字資料をそのまま利用することが困難な方のために、その見え方に合わせて資料を製作・提供するには、多くの時間と手間と技術が必要です。これら全てを図書館の職員だけで製作するには、人手も時間も足りません。そこで、録音図書、点訳図書、拡大写本、布の絵本の製作については、図書館主催の講習会を受講し、一定の技術を習得した方を協力者として登録し、製作を依頼しています。図書館では、製作する資料の質を保つため、調査の援助をしたり、定期的に講習会を開催して、協力者の技術の向上に努めています。また、製作した資料に責任を持っていただくため、謝礼をお支払しています。平成19年現在、録音図書33名、点訳図書18名、拡大写本8名、布の絵本13名の協力者がそれぞれ活動しています。

デージー(DAISY)録音図書

デージーとは、Digital Accessible Information Systemの頭文字をとったもので、現在、録音図書に使用されているカセットテープに代わる次世代の録音媒体として、全国の点字図書館等で製作、貸出が始まっているものです。平成16年度から、デージーの再生録音機が、「視覚障害者用ポータブルレコーダー」として「日常生活用具給付事業」の対象となったことから、広く利用されるようになりました。従来のカセットテープに比べ、任意のページにすぐに飛ぶことが出来たり、1枚のCDに大容量の音声を収録することが出来るなどのメリットがあります。浦安市立図書館では、デージーの再生機を用意しております。

布の絵本

図書館では、ハンディキャップのある子どもたちに、本を読む楽しさ知ってもらうと同時に機能訓練やことばを育てることを目的に、布の絵本を製作し、市内の小学校や総合福祉センターなどの団体に貸出をしています。布の絵本とは、布やフェルト、ひも・スナップ・ファスナー・吸着テープ・ボタンなどを使い、遊びの中ではずす・はめる・ひっぱる・おしつける・あわせる・ほどく・むすぶなど指の訓練を行なう、絵本と遊具の働きを兼ね備えた絵本です。布の絵本は、視覚だけでなく、触覚も使って多角的に遊べるのが特徴で、布の持つやわらかさ、あたたかさなどを感じることが出来ます。現在、図書館で所蔵しているものは、布の絵本製作協力者の方々が製作したものと、「ふきのとう文庫」より購入したものがあります。

浦安市立図書館

ハンディキャップサービスのあゆみ①

- 1982.10 「浦安市立図書館心身障害者等に関する貸出要項」施行、宅配サービス開始
- 1983. 3 中央図書館開館、利用案内に障がい者サービス掲載、対面朗読室開室
 - 8 録音図書の相互貸借を始める
 - 9 「浦安市立図書館対面朗読に関する要項」施行
 - 10 録音サービス開始
- 3 浦安市立図書館テープ目録・レコード目録の最初の点字版が完成
- 3 対面朗読、点訳図書、拡大写本製作の各サービス開始
- 1985. 1 体の不自由な方の図書館利用に関するアンケートを市内在住の身体障害者手帳・療育手帳の保持者・寝たきりの方の登録者全員、685名に対し、実施
 - 3 「浦安市立図書館障害者サービス協力者設置要項」施行
 - 10 録音図書の製作を開始する
- 1986.11 障がい児のための布の絵本展示会開催、のべ496名が見学
- 1989. 4 中央図書館書庫棟開設、書庫棟に録音室を兼ねた対面朗読室を設置、本館の対面朗読室は点訳室とする
 - 9 体の不自由な方のための図書館利用案内を作成し、配布
- 1990. 5 国立国会図書館による学術文献録音テープ作成の受付機関となる

* データ編(平成19年3月末現在) *

①所蔵数

資料名	タイトル	点数
録音図書(テープ)	163	1,272
録音図書(デージー)	12	12
点字図書	191	732
拡大写本	52	336
大活字本	1,492	2,218

②平成18年度対面朗読数

件数	56
タイトル数	119

浦安市立図書館報 第63号
発行日 平成20年2月15日
編集・発行 浦安市立図書館
〒279-0004
千葉県浦安市猫実1-2-1
TEL 047-352-4646